

3.文献データベースについて（概要）



この章からは、先行研究調査のもう1つのアプローチとして、文献データベースの活用について紹介していきます。

GoogleやGoogle Scholarは 先行研究調査に向いていない

網羅性の問題

収録範囲が示されていない=何を検索できているか分からない

⇔できるだけ広く文献を探したいという先行研究調査の趣旨との齟齬

検索性の問題

検索条件を細かく設定できない、並び替えや絞り込み機能の弱さ

書誌情報が整理されていない

正確な書誌情報が得られないと選別・入手作業へ進むのが難しい

※とくにGoogleは、対象が学術情報（学術文献）に限定されていない

ノイズ（求めている情報=ここでは学術文献でないもの）がかなり多い

18

文献の「検索」と聞いて、まずGoogle、Google Books、Google Scholarを思い浮かべる方も多いかもしれません。もちろんある程度の検索はできますが、先行研究調査という目的で使用するには、問題があります。

1つ目は、網羅性の問題です。Google Scholarなどでは、収録の基準が公開されておらず、ブラックボックスとなっています。重要文献が収録対象から漏れている可能性を排除できません。

2つ目は、検索性の問題です。検索条件を細かく設定できなかつたり、並び替えや絞り込み機能が弱かつたりします。また、検索結果の上位に表示される文献が、どういう基準で選ばれているのか、こちらも公開されていないので分かりません。

3つ目は、書誌情報が整理されていないことです。書誌情報というのは、論文のタイトル、著者名、掲載雑誌名、出版年などのことを指します。インターフェース上の書誌情報がまちまちであるため、検索結果の中から必要な文献を選別作業していくことが難しいです。また、荒い書誌情報のものも検索結果に含まれるため、その情報をもとに文献入手することが難しいものもあります。

とくにGoogleは学術情報を探すためのものではありませんので、ノイズが多すぎます。

Google Books、Google Scholarは、情報が全然見つからず困っているときや、何から学習していいかわからない、というときには、助けになることもあります。しかし、あくまで補助的な立ち位置だと思ってください。網羅的な系統立てた検索には向いていません。

対象に応じてツールを使い分ける

学術文献の検索に特化したデータベースが多数存在する

阪大で契約しているデータベースは有料のものも多い

学術文献も対象によって使う文献データベースが異なる

区分としては…研究分野、日本語文献と海外文献、図書と雑誌論文

使い分けの必要がある、というのは一般の情報検索と同じ

カレー屋を検索するサイトと、ホテルを検索するサイトは違う

「学術文献」という対象の中でも、さまざまな検索サイト=文献データベースがある
ということ意識する

19

Googleのような検索エンジンとは別に、世の中には、学術文献の検索に特化したデータベースが存在します。

そして検索する学術文献が、どの研究分野の文献か、日本語文献か海外文献か、図書か雑誌論文かといった点によって、使うべき文献データベースは異なってきます。

対象による使い分けがあるというのは、一般の情報検索と同じです。

例えば、美味しいカレー屋さんを検索するサイトと、旅行先のホテルを検索するサイトは違いますよね。

「学術文献」という対象の中でも、さまざまな検索サイト、すなわち、文献データベースがある、ということ意識してください。

文献データベースの機能

文献データベースのメイン機能

文献情報（＝書誌情報）を収集・整理して提供すること

付加価値としてのPDFファイルやフルテキストリンク

あくまでそのデータベースが提供できる範囲でのファイルやリンク

大阪大学で読むことができる論文が、全て利用できるようになっていない

大阪大学で読むことができる論文＝良い論文とも限らない

先行研究調査では、検索と入手を切り分けて考えよう！

文献データベースでは、まず「検索」に専念し、書誌情報を得る

20

ここで、文献データベースの機能について、きちんと理解してもらいたいことをお伝えします。

まず、文献データベースのメインの機能は、収集した書誌情報を整理して、検索する人に提供する、ということです。

提供されているのは「書誌情報」というところがポイントです。

最近では、文献データベース上でPDFファイルを読めることが多いのですが、それはあくまで付加的な機能です。

文献データベース側で、大阪大学で読める全ての論文のPDFファイルを掲載している訳では無いので注意しましょう。

また、そもそも、大阪大学で読むことができる論文が良い論文とも限りません。その研究分野で鍵となる論文が大阪大学では読めない、ということもあるでしょう。

先行研究調査では、検索と入手を切り分けることが大切です。

文献データベースでは、まず「検索」によって、必要と思われる論文の書誌情報を得ることに専念しましょう。

4.文献データベースによる 日本語図書の研究調査



次に、文献データベースを使った、日本語図書の研究調査について解説していきます。

適切なデータベースの選択：図書

図書のデータベース ≡ 蔵書検索システム

基本的には、所蔵しているかどうか / どこに所蔵しているのかを調べるためのもの
図書として出版されている先行研究の調査にも援用できる

所蔵している機関によって収録データベースが異なる

大阪大学の蔵書 → 「大阪大学OPAC」 ※各大学のOPACがある

国内の大学・研究機関の蔵書をまとめて → 「CiNii Books」

国立国会図書館+都道府県立図書館+政令指定都市立中央図書館 → 「NDLサーチ」

都道府県内の公共図書館をまとめて → 「カーリル」「大阪府立図書館横断検索」等

海外の図書館 → 「WorldCat」等

図書を対象としたデータベースは、どこに所蔵しているのか、という蔵書検索システムとしての性質を持っていることが多いです。
これらのデータベースは、欲しい図書がどこにあるかを調べることができるだけでなく、図書として出版されている先行研究の調査にも活用することができます。

所蔵している機関によって収録データベースが異なる、ということを意識してください。
機関ごとに作成されているものもあれば、複数の機関の蔵書をまとめて検索できるものもあります。

適切なデータベースの選択：図書

日本語の学術書の検索は、基本的には以下の2つで足りる

CiNii Books	国内のほとんどの大学・研究機関の図書館所蔵資料を検索できる
国立国会図書館サーチ (NDLサーチ)	国立国会図書館法によって、国内で出版された図書は国立国会図書館への納入義務があるため、国内で出版されたほぼ全ての図書が所蔵されている さらに全国の都道府県立図書館、政令指定都市立図書館の所蔵資料も検索できる

23

日本語の学術書の先行研究調査は、基本的にはCiNii Booksと国立国会図書館サーチの2つで足りる。

CiNii Booksには、国内のほとんどの大学と、研究機関の所蔵資料が収録されていますので、まずはCiNii Booksを活用するのが基本となります。
日本語の学術書であれば、基本的にはどこかの大学・研究機関の図書館で所蔵していると考えられるためです。
CiNii Booksに登録がないものは、かなり希少なもの・ニッチな分野のものであるか、出版されたばかりでまだ所蔵されていないかのどちらかでしょう。

国立国会図書館サーチ（以後NDLサーチと言います）では、国立国会図書館が所蔵する資料や、全国の都道府県立図書館、政令指定都市の図書館などが所蔵する資料を検索することができます。
CiNii Booksで見つからなかった資料も、NDLサーチで見つかることがあるので、あわせて検索してみると良いでしょう。

図書を検索するときのポイント

書名・著者名に含むキーワードでしか検索できないと想定する

多くのデータベースでこれが基本

自分の入れたキーワードと文字列として一致するかどうか

キーワードの検討がとても大切

同義語や類義語、上位語、下位語を検討する

とくに大切なのが「**上位語**」（ある概念を含むより広い概念）

←図書は中身の分量が多いので、自分で思いつくキーワードよりも、広い概念が書名に入っていることが多い

図書を検索できる多くのデータベースでは、目次は検索できません。
書名・著者名などに対してしかキーワード検索できません。

そして、図書を検索するときは、論文を検索するときよりも、注意深くキーワードを選択しなくてはなりません。

同じ意味のことばである同義語や、似た意味のことばである類義語、またそのことばを含むより広い概念の上位語、そのことばの中に含まれるより狭い概念の下位語なども検討してみましょう。

とくに大切なのが「**上位語**」です。論文にくらべて、図書は扱っている内容の分量が多いため、自分で思いついたキーワードよりも、広い概念が本のタイトルになっていることが多いです。そのため、自分の入力したキーワードでの検索結果が想定より少ない場合は、上位の概念にあたるキーワードで、再度検索してみてください。

CiNii Booksについて <https://ci.nii.ac.jp/books/>

基本的には書名・著者名・出版社名などでしか検索できない

「図書・雑誌」検索タブで目次が検索できるのはほんの一部の資料のみ

AND, ORなどの論理演算子も使える



「内容検索」タブに切り替えると目次や内容説明の検索ができる

ただし、あくまで目次データを持っている資料が対象

全ての資料に対して目次を検索できるわけではない

CiNii Booksについてご紹介します。

CiNii Booksでは、「図書・雑誌検索」タブが初期選択されています。この状態ですと、目次が検索できるのはほんの一部の資料のみで、基本的には書名・著者名・出版社名などでしか検索できません。

AND, ORなどの論理演算子を使うことができます。これについては次の5章で説明します。

ここから、「内容検索」タブに切り替えると、目次や内容説明を検索できる資料が増えます。

「図書・雑誌検索」タブでの検索で、ヒットする資料が少ない場合は、「内容検索」タブを試してみても良いでしょう。

ただし、全ての資料に対して目次を検索出来ているわけではないので注意が必要です。

[参考] 阪大所蔵資料を発見しやすくする

CiNii Booksを「大阪大学」モードにすると、大阪大学所蔵資料が一番上に表示されて便利

キャンパス内からであれば自動でこのモードになる

The screenshot shows the CiNii Books search results for the book 'ドナウの南とエルベの東：ドイツの二大文化圏：ドイツ地誌入門' by 鈴木 吉彦. The page includes search filters and a list of libraries. The 'Osaka University' library is highlighted with a blue box, and a callout box points to it with the text '大阪大学の所蔵資料'.

図書館名	OPAC
大阪大学 附属図書館 外国学図書館 293.4 54 15100183597	OPAC
大阪大学 附属図書館 総合図書館 11700274381	OPAC
愛知教育大学 附属図書館 国 293.4 598 10009151	OPAC

26

CiNii Booksについての補足情報です。

CiNii Booksにキャンパス内からアクセスすると、所蔵図書館リストの一番上に大阪大学の図書館が表示され、大阪大学での所蔵有無が一目でわかって便利です。

[参考] 阪大所蔵資料を発見しやすくする

新規登録 ログイン English

キャンパス外から

大阪大学
学術認証フェデレーションログイン

Login to CiNii
大阪大学個人ID (Personal ID)
パスワード (Password)
ログイン (Login)

所属機関:
大阪府立大学
大阪市立大学
京都府立医科大学
龍谷大学
奈良女子大学
大阪大学
和歌山大学
滋賀大学
京都府立大学

画面右上の「ログイン」

所属機関の学内認証システムでログインする方 (GakuNin)
(Institutional Login for institutions in Japan.)

ログイン (Login)

KOANやCLEと
同じIDとパスワード

27

キャンパス外からアクセスしたときも、大阪大学の図書館を一番上に表示することが可能です。
方法としてはこのスライドのとおりです。
CiNii Books画面右上の「ログイン」から、所属機関に大阪大学を設定し、大阪大学個人IDでログインします。

国立国会図書館サーチについて

基本的には書名・著者名・出版社名などでしか検索できない

目次が検索できるのは一部の資料のみ
AND, ORなどの論理演算子も使える



<https://ndlsearch.ndl.go.jp/>

国立国会図書館サーチで目次データを検索するには

https://ndlsearch.ndl.go.jp/rnavi/plan/post_1014

2つのデータベースで目次データの主な収録年代が違います。
・CiNii Booksの「内容検索」は1986年以降が主
・国立国会図書館サーチは1968年頃までが主



28

次に、国立国会図書館サーチ（NDLサーチ）について紹介します。
こちらでも一部の資料については、目次を対象に検索できますが、基本的には書名・著者名・出版社名のみが検索できる項目となっています。目次を検索したいときには、資料種別を絞り込まないようにしてください。

2つのデータベースは、目次データの主な収録年代が違います。
CiNii Booksの「内容検索」タブでは主に1986年以降の資料、NDLサーチでは主に1968年頃までの資料の目次データが多くなっています。
が、実際に検索をしてみると、論文集の個別タイトルは内容細目としてわりと収録されているので、最近の図書が内容でヒットすることもあるように思います。
どうぞ使ってみてください。

OPACでの先行研究調査では不十分？

あくまで大阪大学で所蔵している範囲での検索となる

大阪大学で所蔵していない図書でも、重要な先行研究が存在する可能性は当然ある

大阪大学の図書館で所蔵している資料

→基本的にCiNii Booksに登録されている

そのため、CiNii Booksを検索すれば、大阪大学OPACの中身も基本的に含んでいる

例外：電子ブック / 冊子でも古い資料や一部の研究室所蔵資料はCiNii Booksに未登録

OPACも書名・著者名・出版社名などでしか基本的に検索できません
検索仕様は以下のとおりで、()での掛け合わせはできません。

AND検索 SNS△ツイッター
OR検索 SNS△+△ツイッター
※「△」はスペース。半角でも全角でもOK。
※「+」は必ず半角で入力



29

日本語図書の先行研究調査となると、まずは大阪大学OPACを使っている、という方も多いかもしれません。

大阪大学OPACから検索できる資料はあくまで大阪大学で所蔵している範囲のもので、

大阪大学で所蔵していない図書でも、重要な先行研究が存在する可能性は当然ありますので、大阪大学OPACでの調査だけでは不十分です。

大阪大学の図書館で所蔵している図書は、基本的にCiNii Booksに登録されている、と考えていただいて差し支えありません。

そのため、CiNii Booksを検索すれば、大阪大学OPACの収録資料も基本的に検索できています。

漏れなく正確な先行研究調査を行うという観点からすると、CiNii BooksとNDLサーチの両方を活用して、日本語の学術書を幅広く探すと良いでしょう。